

雨に打たれながら
子供を生ませて
とすがる彼に孕ませた

それ

祭壇の花を活けていると、掃除をする老翁、杉山さんが「聞いたかあ？
牧師さん」と声をかけたきた。

「最近、ここらで雨が降ると『強い子供を生ませて』って野郎が、男
にすぎりついてくんだってよ。」

妊婦用のワンピースを着て、雨でびしょ濡れになってさ」

花を生ける手を止めないながら「なんと罪深い・・・」と嘆かわしい
とばかり呟く。

正直、教会で話すのは不謹慎な内容に思えたが、杉山さんは熱心に通

う信者だし、献身的に手伝いもしてくれる。

かなり年上で近所の顔利だから「神の御前でそんな」と諭すことはできず。

「まあ、罰当たりなことしてるもんだが、これが迷える子羊なのか、この世でないものなのか、はつきりしない。というのも、その男に口づけされると抗えないからだ。

そりゃあ、ほとんどのやつは拒否するだろうし、たとえ同性とやれるやつも『強い子供を生ませて』って泣きついてきたら、気色わるがって相手にしないだろう。

ほとんどが逃げたり、突き放すらしいが、執念深く男はまわりついて、口づけをする。

そしたら、とんでもなく血が沸騰するように興奮して、我を失い、男を貪るように犯してしまう。

男が求めるまま、たっぷり子種を与えてな」

教会を受け継ぐとき、お世話になった杉山さんは恩人だし、その面倒見のよさにいつも助けられているが、場所を弁えず、下世話な話をするのが難点。

背をむけて、眉間の皺を見られのようにしつつ、どう話題を変えようかと考えているうちにも「ほんとうに恐いのは、それからだ」とおしやべりは止まらない。

「熱に浮かされるように男を犯してしまったやつは、事後、その記憶が曖昧になって、ほんとうに現実だったのかと疑う。

しばらくもすりやあ、忘れたくもあつて、悪夢として片づけようとするが、矢先に雨が降るんだよ。

で、悪夢を見た場所に男が現われて、膨らんだ腹を撫でながら『順調に育っているよ』って笑顔で報告する。

雨が降るたびに、大きくなつた腹を見せに現われるものの、もう生まれそうってくらいの大きさになったら、ぱったり顔を見せなくなるんだと。

今まで男に魅了されて、孕んじまった野郎どものなかで、生まれた子供を見たやつはいないって話だ」

見も知らない男を惑わして、自分を抱かせることなんて、まずもつて、できるはずがない。

そのあと徐徐に膨らんでいく腹を見せにくるなんて、いたずらの域を超えている。

「たしかに、その男は生きていないのかもしれない」と思ったが、このまま話に乗つかると、もつと杉山さんが饒舌になりそうだったから「どうか神の御加護を」と胸に指で十字を。

ただ、一つ、どうしても気になり「どうして子供でも『強い』子供なのでしょう」と聞くも、話すだけ話してすっきりしたのか「さあ」とそっけない。

教会を手伝いに、ほかの信者がきたのに「おー信子さん！久しぶりー！」と浮き浮きと跳んでいき、不毛なおしゃべりは終了。

十字架を前にして、ふさわしくない内容だったなれど、記憶にこびり

ついでしまい。

なんとなく雨の日には外出せず、外をうろつく男を思い浮かべながら、告解室にこもっていたところ。



オンラインで恋人と送る
スローライフを呪って
18禁のホラーにしないでくれ

スローライフを送る系のゲームには都市伝説がある。

「オンラインで浮気をした男は呪いにかかる」というものだ。

発端はあるカップル。

遠距離恋愛でなかなか会えなかった二人がオンラインのゲームで、家を建てたり畑を耕したり近所でパーティーをしたり、疑似結婚生活を送っていたらしい。

そうして寂しさを紛らわして順調に交際をつづけていたものを、彼女の仕事が多忙に。

ゲームでも会えない日々がつづき、でも彼氏は気分を害さず「無理しないですね」「仕事がんばって」とこまめに連絡を。

その後押しがあつて、ますます彼女は仕事にのめりこみつつ、なんとか休みを取得し、彼の死誕生日にサプライズを決行。

「今日も残業」と連絡したあと、ひそかにゲームにログイン。

二人で建てた家、オンラインの愛の巣へ、仲間とともに「おめでとー！」と押しかけたところ、彼氏だけでなく、見知らぬ女の子のアバターが、仲間でとり囲んで詰問したところ、彼女が仕事で忙殺されている間、知りあつて親密になつた浮気相手と発覚。

「すぐに別れて！」と迫るも「俺はずっとそばにいてくれる彼女を選ぶ！」「私、譲るつもりありませんから！」と二人は断固として拒否。

どれだけ二人が愛しあい、絆を深めているかを熱弁しつつ、苛烈に彼女の非難を。

「俺が好きな∞禁の男性向けホラーゲームも彼女は受け入れて、プレイするのをにこにここと見守ってくれたしな！」

お前は一切、興味を持たず、なんなら軽蔑していただろ！」

「あなたは『お下劣なゲームをつづけるなら別れる』って脅したそうじゃないですか！」

愛する人が好きなものを、そうやって踏みにじるなんて浮気されるのも当然ですよ！」

浮気したことを棚にあげ、息つかせず二人で責めたてると「あああああ！」と彼女は発狂。

農具の釜を持ったなら、自分の首を切り裂き、血を噴出しながら倒れた。

ゲームでは自殺も他殺もできず、そもそもアバターが死ぬこともないはずが……。

運営はすぐに彼女のアバターを消したとはいえ、なぜか、床に散った血はそのまま。

胸騒ぎがした彼氏が、現実の彼女に電話をかけたりメッセージを送るも、連絡がとれず。

仮想現実でそうした騒動があったと同時に、現実世界では奇声を耳にした隣人が通報したことで、彼女の遺体を警察が発見。

包丁で首を切ったらしく、血だまりに倒れていたという。

ゲームのバグと彼女の死と関連性があるかは謎。

あくまでプレイヤーの痴情のもつれであり、ゲーム自体に問題はなかったとして、この件を公表せず、会社は運営を続行。

当事者の二人も凶太いもので「オンラインの愛の巣を手放すのはもったいない」とゲーム上での交流をやめず。

その日は二人が交際しだして半年記念ということで、彼氏が仲間とサプライズパーティーを企画。

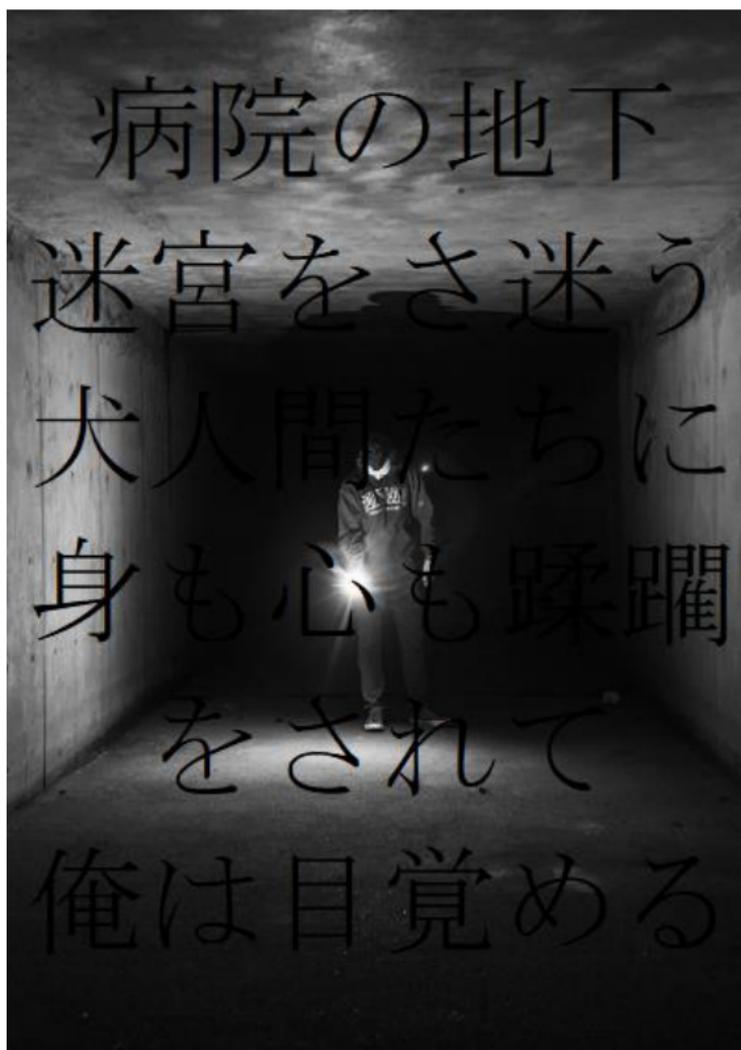
新彼女のアバターが一人でいる部屋に、彼氏と仲間たちが歌いながら、巨大なケーキを運んだところ。

「わあ！うれしい！」と彼女が跳びあがった間もなく「な、なんだこれは！？」とケーキを落として、彼は挙動不審に。

周りが「どうした？」と心配そうに呼びかけるも無視して、這いつくばったまま動かなくなったり、悲鳴をあげて部屋を走り回ったり。ついには「やめろおおお！」と床に倒れて、呻きながら痙攣。

そのうち、なにかに齧られるように、血しぶきをあげながらアバターの肉体がえぐれていき、床にのこったのは人骨だけ。

途中でパソコンのまえから離れた新彼女は、彼氏の家に跳んでいき、果たして室内で見つけたのは死体。
無傷ながら、目を見開いたまま絶命していたという。



病院の地下

迷宮をさ迷う

犬人間たちに

身も心も蹂躪

をされて

俺は目覚める

壁にはりつき息を殺しながら「どうしてこうなった」と誰にともなく何回も問いかける。

腕には保田がすがりついて、汗まみれの手から震えが伝わってやまない。

時は遡って一時間前。

脅かし役のメンバーがホモたちを怯えさせ泣かせてお漏らしまでさせて、その醜態をばっちり録画。

目的を果たし「編集してネットに流すのたのしみだぜえ！」と浮き浮きと帰ろうとしたとき代表が隠し扉を発見。

隠し扉の向こうには下りの階段があり、地下室につづいているのか。真つ暗な階段の下のほうをスマホで照らし「精神病棟の地下ってやばくね?」「こっちのほうがガチじゃん」「結局、俺らは肝試し、やっていないしな」とはしゃいで降りていったのがまちがい。

メンバーとホモたち全員が地下に降りたところで扉が閉まり、どれだけ押ししても蹴ってもタツクルしてもびくともせず。

「まさか俺たちをハメたのか!？」とホモたちをしめあげていたら悲鳴が。

見やると、尻餅をつくメンバーの前に異形の者が。

頭はドーベルマン、体は人間。

フルチンの裸にして、尻から生えた尻尾をぶんぶん。

生生しすぎるドーベルマンの顔は被りものに見えず、犬人間といったところ。

それは目のまえのメンバーをすぐに襲うことなく、遠吠えをすると、地下室のあらゆるところから犬人間が押しよせてきた。

尻餅をつくメンバーに群がり「やあ、ああ、ああ、やめろお、ああああ！」と服を引き裂き、どうやら犯しているよう。

あまりに突拍子もなく急展開が起こり、凄惨な光景を前にして俺たちは呆然。

群れの一人の犬人間が弾きだされ、こちらに振りむいたとたん、やつと我にかえり、蜘蛛の子を散らすように逃げた。

肝試しをする前、病院を下見したものを、地下室はノーマーク。どれだけの広さで、どういう構造なのか、さっぱり分からないまま、とにかく犬人間から距離をとろうと闇雲に走って、気がつけば、保田と二人に。

突き放そうとしても腕にしがみついたまま、梃子でも動かさず。

「お前はホモだからいいだろ！」「あれはエッチじゃなく暴力であり犯罪だ！」とどれだけ小声でいい合ったか。

二人で喧々諤々していたら見つかってしまうから、そのうち諦めて、文句を垂れず保田を従えることに。



延延とかくれんぼを
する俺は少年のように
慰みものにされても
救われない

その町に踏みこむと、住宅街に閉じこめられてしまうのだとか。

脱出しようにも、踏みだした足はまた住宅街を踏みしめ、すこし先の大通りにでたくても、どうしたって、でられない。

ただただ歩いていても埒がなく、とりあえず立ちどまり、目を瞑って三十を数える。

そして「もーいーかい」と住宅街に響かせると「まーだだよ」と子供が返事。

このやりとりを十回くらいして「もーいーよー」と返ってきたら、かくれんぼ開始。

おそらく、その子供を見つけられれば、異常な閉鎖空間からぬけられるのだろう。

「つつても、今まで誰一人、生還したやつがないらしい。

『子供を見つけたら結局、呪い殺されるんじゃない？』って彼女なんかは、
いっていただけだな！」

ホテルの一室にて、裸でベッドに座り、煙草を啜えながら笑う俺。

「彼女」の一言にどんな反応をするかと思いきや、隣にいる会社の後輩、小淵は気だるそうな顔をしたまま。

「おもしろくないな」と目を逸らして煙草の煙を吹いたところで「俺も聞いたことあるよ」と思いがけない発言が。

『もーいーよー』って答える子は、昔、かくれんぼをしていて、放置された男の子なんだって。

あまりにも見つからないから『もう帰ったんだらう』って置きざりにされた。

でも、お兄ちゃんが帰宅したら、弟のその子がいなくて。

警察と近所の人が探しまわったところで川原で死体が発見された。

・・・服が引き裂かれて、殴られたのと首を絞められた跡があったとか。

近所で出沒していたという変質者の仕業だろうと見られた。

変質者はちょうど、同じくらいの年ごろの男子ばかり狙ってたから。まあ、幸い、というか、性的暴行はされなかったようだけど・・・」

薄ぼんやりとした怪談から、生々しい殺人事件の話になって、ピロト
ークが台なし。

「こいつ、ほんと空気クラッシュだな」とため息をつきつつ、興味
がなくはなく「で？その子が今も自分を探してほしいと？」とつづき
を促す。

「どうかな・・・結局、強制的にかくれんぼをさせる相手を生還させ
ないのだから、復讐の意味もあるんじゃないや。」

近所ではじめて人が失踪したのは、お兄ちゃんとその親友だった。
そのあとも一年に一人か二人、失踪するらしい。
噂では失踪した人たちには共通点があるって」

「共通点？なんだそれ？」と興味津々に聞くも、物言いたげな顔をし

ておいて、結局、顔を背けてだんまり。

すこし、ひっかかる反応だったが、うなじから背中にかけての滑らかな曲線を見て欲情。

背中を撫であげながら起きあがり、ふりむいた小泷に覆いかぶさって、第二ラウンドに突入。

「ああ、明日早く、江里菜に会うのになあ」と内心、ぼやきつつ、心ゆくまで肉欲に溺れたもので。

お察しのとおり、俺は二股をしている。

江里菜と小泷、男女で。

もとより男女どちらも恋愛対象だったのが「二十代後半だし、そろそ

ろ将来を考えないと」と社長令嬢の江里菜と交際開始。

彼女は社長の一人娘だから、婿入りして会社の後継者になるつもりで。

顔よし人柄よし評判よしの完璧に外面がいい俺だから、すっかり江里菜は惚れこみ、交際は順調。

トラブルが起きなければ、このままとんとん拍子に社長の椅子をゲットできて、一生安泰の地位を築ける。

と思った矢先、告白してきたのが会社の後輩、小渕。

入社したところから面倒を見て、ひそかに「かわいいな、こいつ」と惹かれていたし、そのうえで「いつでも切り捨てていいからセフレに」と誘惑されては抗えず。

ひどく控え目な愛の告白をしてきただけあり、小渕は立場を弁えた都

合のいいセフレだった。

江里菜を優先しても、ぶつくさいわず、長く会えなくても「寂しい」と訴えてすがってこず。

はじめは警戒したものを、画像や映像、録音音声で脅さなかつたし「彼女と別れて俺と真剣に・・・！」と面倒くさく迫ってもこない。

しかも体の相性が抜群。

正直、江里菜とのエッチは義務的にこなしているので、真最中に小湊が恋しくなるほど。